

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。</p>	<p>・高校生としての身だしなみやマナーに最重点を置いて指導した結果、一定の成果をあげた。今後も規範意識及び社会性を醸成するために教職員の共通理解の下で統一した指導を継続する必要がある。</p> <p>・授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげた。学力の向上については一定の成果は現れたが全体の学力底上げが今後の課題である。「わかりやすい授業」とともに「力をつける授業」を一人ひとりの教員が意識した上で、教科としての取組が必要である。</p> <p>・京都フロンティア校として「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒の進路意識を醸成するとともに、高校卒業後の進路保障につなげることが必要である。</p> <p>・1年生の全員部活動等加入・活動を推進するとともに、部活動の一層の活性化に向けて競技力の向上のみならず、学校全体・地域との関わりを持った具体的な取組を継続する必要がある。</p> <p>・生徒の心身の状況把握に努め学校不適應に早期に対応することが必要である。</p>	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <p>(1) 内外における学校評価に基づき、生徒や保護者のニーズを的確に把握し、教育活動の点検及び改善に努める。</p> <p>(2) 自己有用感を高め、常に規範意識を持ち、人権尊重の涵養に努め、節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざす</p> <p>(3) 学習活動においては、日々の授業を大切にし、家庭学習の習慣を養い学習習慣の向上をめざす。</p> <p>(4) 部活動においては、常にチャレンジの気持ちを忘れずに部活動に打ち込める環境づくりを行い、帰属意識や母校愛の醸成に努める。</p> <p>(5) 合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な人間関係の構築に取り組み特別支援教育の指導に向けて強化を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。 ----- 学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にして改善を図る。	・部長会議をはじめ各種会議を効率的に運営し、担任、教科担当、分掌間の意思の疎通を図る。 ・城陽50プロジェクト会議を充実させる。 ・学校評価アンケートを全保護者対象に行い、幅広い意見を収集し課題を明確にし、改善を図る。	B			・計画に従って実施できた。 ・城陽50プロジェクト会議の協議内容の精選が必要と考える。 ・保護者アンケートを全保護者対象に実施し、回答を1、2年生保護者に返すことができた。
教育課程の編成と実施	質の高い学力の向上をめざす。	・新学習指導要領に対応した新しい教育課程の編成に着手する。 ・一人一人の進路希望の実現に向けて、教育課程を実践する。	A	A	A	・新学習指導要領における探究学習について研究を行うなど、新教育課程の編成に向けて、スターを切ることができた。
教科指導	基礎学力も含めた全般的な学力を定着させる。 ----- 教科指導力を高める。	・大学生ボランティアの活用を図りながら、「基礎固め学習会」や「基礎補充」をより効果的に機能させ、成績不振生徒への指導を充実させることにより、中退・原級留置を防止する。 ・ベル着や授業開始終了時のあいさつを徹底し、教員生徒相互の信頼関係を基盤に落ち着いた規律ある学習環境づくりを目指す。 ・教科書等の持ち帰り指導や教科指導の工夫等、家庭学習を促す取組を実践し、学習習慣の確立を目指す。 ・ICT機器の利用を促進し、わかりやすい授業を目指す。 ・校内研修、公開授業、授業アンケート等を活用し、教員の教科指導力のさらなる向上を目指す。	B	A	A	・基礎補充を計画的に実施し、成果を上げた。 ・授業規律については一定保たれているが、一部個別指導に及ぶ事例があった。 ・「持ち帰り指導」と「家庭学習推進週間」が家庭学習の習慣化に向けてうまく機能するよう工夫を重ねていきたい。 ・ICT機器の利用については、まだ全体のものにはなっていない。 ・公開授業・授業アンケート・教科内交流を関連づけて行い、指導法の研究を進めることができた。
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的生活習慣を確立させる。 ----- いじめのない学校を目指す。	・平素の身だしなみの指導や毎朝の校門指導、また集会での啓発指導等を全教職員で年間を通して行い、基本的生活習慣の確立を目指す。遅刻については年間10回を超える生徒が無くなることを目指す。 ・職員間でいじめの定義について共有し、生徒について情報交換を行うことで早期に対応できるようにする。 ・いじめ対策委員会を機能させ、いじめ事象に対して組織的に対応できるようにする。	A	A	A	・基本的生活習慣の確立と身だしなみ指導、挨拶指導については一定の成果を上げている。 ・遅刻については、2限以降の登校者への対策を検討する必要がある。 ・嫌な思いをしている生徒に対して、学年部・生徒指導部で連携し、重大事案になる前に解消に導くことができた。
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化させる。	・1年生の全員部活動加入の取組を推進することで部活動参加意識の向上と活動の活性化を図り、全体の入部率を男子は80%、女子は75%に向上させる。 ----- ・生徒会活動を中心として、各委員会活動や地域に根ざしたボランティア活動を活性化させる。	A	A	A	・全体の入部率は年々向上している。今後は、より一層活動内容の活性化を図りたい。 ・生徒会やボランティア部を中心に様々な地域の活動に参加し、地域との連携を深めることができた。
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌・教科と連携し実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。 ・「人権教育だより」の発行を通じて、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。	A	A	A	・各学年の人権担当と連携して、人権学習を計画通り行った。 ・「人権教育だより」を8回発行した。
進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、希望進路実現に向けた意欲と学力を向上させる。	・「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の進路意識を高揚させるプログラムを充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。 ・自ら進路を切り拓く能力や態度を養うために、進路補	A	A	A	・「TAG城陽」の取組は計画どおり実施できた。 ・「土曜授業」や「学習合宿」の取

		講、学習合宿、土曜教室、模擬試験等を積極的に実施する。				り組みも軌道に乗り始め、受験に向けた意欲と学力を向上させることができた。
		・「進路のしおり」の充実を図り、最新の進路情報を適切に提供すると同時に、学年部との連携の中で生徒とのカウンセリング機能を高め、個々の進路希望実現に対応する。	A			・新入試への対応については、世の中の動向を確認しながら進めていきたい。
		・高大接続改革や新入試への対応を進める。	A			
保健管理	個々の生徒の理解や支援に努める。	・担任を中心に学年部、保護者その他関係者との連携を密にして生徒の心身の状況の把握に努める。	B	A	A	・学年部・保健部との連携をさらに強め、対象生徒や保護者に向き合っていくことが必要である。
		・SST研修やhyppr-QUの取り組みを推進し、より良い環境作りを目指す。	A			・次年度も継続実施したい。
		・個別の支援等が必要な生徒に対する校内委員会を定期的に開催し、適切な支援ができるようにする。	B			・校内委員会の開催や、関係機関と連携した個別の対応を行い事ができた。
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	・美化・安全点検を定期的に行い、環境美化活動を活性化させる。	B	B	B	・環境美化活動については計画どおりに行えた。質の向上を目指したい。
		・保健委員会の活動を活性化し、委員会ニュース等を活用して、健康・安全や校内美化の啓発に努める。	B			・保健委員会活動も年々充実してきた。他の委員会活動とあわせて、学校の活性化に寄与したい。
就学支援	生徒の経済的不安に対する制度的な支援を行う。	・就学支援事業や奨学金制度の周知とていねいな事務処理により、不安のない高校生活や希望進路の実現につなげられるよう援助する。	A	A	A	・在学生徒向け奨学金、進学用奨学金ともに保護者向けに周知できた。
財務	生徒が安全・安心して学校生活を送れるよう、教育環境を確保する。	・施設設備のメンテナンスを向上させ、より良い教育環境を確保する。	A	A	A	・日々の修繕対応については速やかに実施できた。施設設備の老朽化については、年度末に一定の改修に取り組めた。
広報活動	地域からの信頼や期待に応え、本校の良さがよりよく伝わるよう広報活動を行う。	・各部活動顧問や分掌との連携を密にし、学校説明会・部活動体験の開催時期を見直すとともに、本校の魅力がより伝わる内容を企画する。	A	A	A	・各説明会については、開催時期・回数・内容ともに改善を加え実施した。来年度以降もより良い形を模索していきたい。
		・城陽高校NEWSの年4回発行とともに、ホームページについては、部活動の様子や保護者に向けた内容等、より内容を充実させる。	B			・本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信できた。次年度も地域から信頼される学校として情報発信を行いたい。
学校関係者 評価による 評価		・城陽高校の目指している方向を理解していただいた。 ・地域から信頼されている学校であると評価していただいた。 ・社会で通用する心の強い生徒を育成していただきたい。				
次年度に 向けた改善の 方向性		・授業規律の維持と、学力の伸長を一層はかるため、教職員の指導力向上に向けた学校全体の取組を継続して行う。 ・1年生の全員部活動等加入を継続するとともに、競技力の向上や質の高い部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。 ・「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 ・土曜日や長期休業を有効に活用した取組を実施し、家庭との連携を密にし進路保障につながる学力の育成に尽力する。 ・ソーシャルスキルトレーニング等を通して合理的配慮の視点を持った他者を尊重する適切な対人関係の構築に取り組む。 ・生徒の心身の状況把握に努め、学校不適応に早期に対応する。 ・広報活動を一層強化し、地元の方々や小学校・中学校・教育関係機関に信頼される「地域に愛される学校」を目指す。				